

令和3年度(2021年度)
厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)
分担研究報告書

拠点病院集中型のHIV診療から、地域分散型のHIV患者の医療・介護体制の構築
HIV感染患者の千葉県内エイズ治療拠点病院における歯科治療状況の調査に関する研究
研究分担者 坂本洋右 千葉大学医学部附属病院 歯科顎口腔外科 講師

研究要旨:千葉県内エイズ治療拠点病院における歯科治療状況について現状調査を行った。千葉県内のエイズ治療拠点病院6施設の歯科・歯科口腔外科に対して、質問紙によるアンケート調査法を行い、解答を集計した。全施設でHIV感染患者の歯科治療を行っていた。全身麻酔手術は5施設で行っていた。全施設で手術を施行できる環境が整備されていた。歯科治療全般は、特別な感染防御対策は不要であり、一般歯科診療所で十分対応可能であることを、今後啓蒙していく必要がある。

A. 研究目的

HIV感染患者において、歯科治療のほとんどは病院歯科およびエイズ治療拠点病院の歯科口腔外科で行われている。一般歯科診療所における、HIV感染患者への歯科治療提供体制の充実を目指し、千葉県内エイズ治療拠点病院における歯科治療状況について現状調査を行った。

B. 研究方法

千葉県内のエイズ治療拠点病院6施設の歯科・歯科口腔外科に対して、質問紙によるアンケート調査法を行い、解答を集計した。

C. 研究結果

6施設・過去5年間での当該科を受診したHIV感染患者数は合計89名であり、全施設でHIV感染患者の歯科治療を行っていた。性別は男性が8割近く、年齢層は50~69歳が半数を占めた。来院経緯は内科等からの紹介が大半であり、歯科医院からの紹介比率は低かった。処置内容で最も多かったのは歯周治療であった。治療開始基準については、4施設で定められていた。使用機材の滅菌および感染防御策は、5施設で通常と同じ方法であった。印象体および石膏模型は、全施設で通常と同様に取り扱っていた。初診時にHIV感染が判明していないケースは1例であった。全身麻酔手術は5施設で行っていた。

D. 考察

今回の調査結果における歯科受診患者の性別・年齢分布は、日本のHIV感染患者の性別分布と矛盾せず高齢であった。来院経緯の分布から、HIV感染症加療中の患者が多数であり、一般歯科診療所にお

けるHIV感染患者の受療率は低かった。処置内容に大きな偏りはなく、治療開始基準は4施設で設けられ、感染防御策は全施設においてスタンダードプリコーションに基づいた対策がとられ、全施設で手術を施行できる環境が整備されていた。

E. 結論

HIV感染患者の歯科観血的処置は、内科との連携、血液データの確認等が重要であり、エイズ治療拠点病院での処置が推奨される。歯科治療全般については、特別な感染防御対策は不要であり、一般歯科診療所で十分対応可能であることを、今後啓蒙していく必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

千葉医学会第42回歯科口腔外科例会
富来 早織 吉村 周作 坂本 洋右
HIV感染患者の千葉県内エイズ治療拠点病院における歯科治療状況の調査

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

該当なし